

2011/8/23

柏の景気情報（平成23年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年7月分）

○ 調査期間 : 平成23年7月21日 ~ 7月26日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	110	64.3%
建設	47	29	61.7%
製造	36	25	69.4%
卸・小売	49	37	75.5%
サービス	39	19	48.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年7月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは震災前水準よりも回復 原発事故の影響に懸念 ▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.1(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.2(同▲60.5)、製造業▲24.0(同▲30.7)、建設業▲20.6(同▲26.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.7(同±0.0)である。

【建設業】からは、「震災にあたり修理工事・耐震補強工事が増加」、「学校の夏休みに向かって補修工事はあるがその後の見通しは未定」、「屋根瓦の改修工事も完了し地震の復旧工事も落ち着いた」、「公共工事も夏休みの学校関係の工事が集中してきている。梅雨が終わり民間の受注が増えている。受注はあるが従業員不足でお客様には待って頂いている状態」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「福島原発関連の仕事が増えている」、「震災の影響がここへ来て本格化するか？震災特需を期待していたが何も変化なく、東北での製造業の復興までに関東に仕事が行くかと思いきや、どうやら中国での新規立ち上げが多いと聞く。復興支援策として、製造業の生産を海外へ移すことを制限するなどの措置はとれないのだろうか。また繰り返して言うところ円高をどうにかすることが復興への最優先課題ではないか？」、「円高の進み具合によっては、さらに為替差損による影響が懸念される。」などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「業況は残暑のあるなしで大きく左右される。ここ2年間残暑厳しく秋物衣料は全く飛んでしまった感があり流すくらいしか作らなくなっている。残暑があれば単価が上がらず売上高の減少になる」、「7月度、セールを昨年より1週間前倒し6/30(木)より開催したことから、売上高は前年を上回る出足となった。百貨店のセールが7/1開催と、足並みが揃わなかったことから初日に大きく落とした。2日目以降徐々に盛り返したものの、手堅い消費行動がみとれ、買い廻りが減少、主力の衣料品が苦戦し全体に影響した」、「各メーカーから8月より原材料の値上げの通知が来ている。値上げ率も大きく、品目もたくさんで簡単には商品の価格には転嫁できず頭の痛いところだ」、「7月売上は例年なら一番夏の売り上げがよいのですが今年はマスコミの影響もあり牛肉問題でかなり低下しています。放射能問題が落ち着かないことには家族連れや一般のお客様が安心して肉を食べられないのが低下している原因」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊の稼働は戻ったもののインターネットからの予約が増え、一室単価を落とす傾向は変わらず。又、原発の影響で外人客の減少も大きい。宴会は、企業の宴会、会議、セミナーの減少により苦戦が続く原発の影響により食品(野菜、牛肉、米、大豆、トウモロコシ等)の値上がりが見込まれる。個人消費も落ちている中で個人需要が落ちてくるともっと厳しくなりそうである」、「7月は前年同月と比べ海外個人、法人需要が前年をこえてきた。先行き見通しとしては9月が国内個人、法人需要が前年を超える見込みだが、8月10月が前年われの動きとなっている」、「業況は不変であるが、関与先企業への支援頻度の増加に伴い、報酬が増加している。採算に関しては、リストラの一環として①オフィスの閉鎖②専従従業員の減少が採算を好転させている」などの声が寄せられた。

◎原発事故の影響

各業種から、「材料不足、高騰、受注単価減少、売上減少、資金繰り悪化となり、倒産整理となった同業者も出ている。また、放射能の影響で柏からの転出、住宅取り消しも出ている(その他の職別工事業)」、「買え控えムードも少し落ち着きを見せているものの、若い主婦たちの柏のホットスポットの話題を数多く聞く家族での転居の話もちらほら、そんな中でも、節電も一息の様子もあり、今後、消費に向かうように見える(時計・眼鏡・光学機械小売業)」、「柏は放射能ホットスポットや牛肉のセシウム汚染の報道の影響もあり生肉については7月度マイナス11.9と不振である。一方野菜は前年プラス3.8と好調に推移している(百貨店)」、「とにかくホットスポットといわれている東葛地域の放射能問題には行政は全力で取り組んで頂きたい。今後食品の放射線量問題はますます出てくるようで正直怖い。食品表示に関しては小売業だけではなく今後は飲食業も積極的に勉強すべきである(各種食料品小売業)」、「全体としてお客様からの問い合わせが減少しています。やはり放射能に対する一般の人々の不安が影響しているようです。特にマスコミによるホットスポットの記事が響いています(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎受注・売上減少

各業種から、「震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ(ガス業)」、「新規設備投資の増加が見込めず先行不透明です。また購入材料量の値上げが続く利益減少が見込まれます(その他の機械・同部品製造業)」、「注文控えが見受けられ全体的に売上げが減少傾向にある(一般産業用機械・装置製造業)」、「7月は夏祭りなどのイベントに使う食材などが毎年売れるのですが、今年は縮小傾向にある為、売上が伸びません(農畜産物・水産物卸売業)」、「前月と変わらずです。ただ、例年ですと夏季期間は案件は少ないこともあり、ダブルパンチを受けた感じです(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎節電

各業種から、「猛暑の予想で省エネ型エアコンに買い替えが増えた。一般に節電の考えが浸透してきている(電気工事業)」、「15%節電に対し20%減を目標に取り組んでいる。具体的対応として工場の1F窓にゴウヤアサガオ等のグリーンカーテンを実施する、工場屋根に打ち水用パイプを設置し、2~3度の室温効果を期待。警報体制を引き、節電行動の徹底を実施(その他の機械・同部品製造業)」、「15%の節電要請による作業効率の悪化(紙製容器製造業)」、「節電は使用制限範囲内に収まっているが暑さに向かい空調への影響が心配である(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲36.7	▲20.0	▲28.5	▲50.0	▲38.4
3月	▲49.2	▲42.8	▲33.3	▲58.6	▲50.0
4月	▲44.0	▲38.8	▲37.0	▲59.4	▲37.0
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
見通し	▲22.7	▲13.7	▲16.0	▲35.1	▲21.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28. 1(前月水準▲33. 3)となり、マイナス幅が5. 2ポイント縮小した。

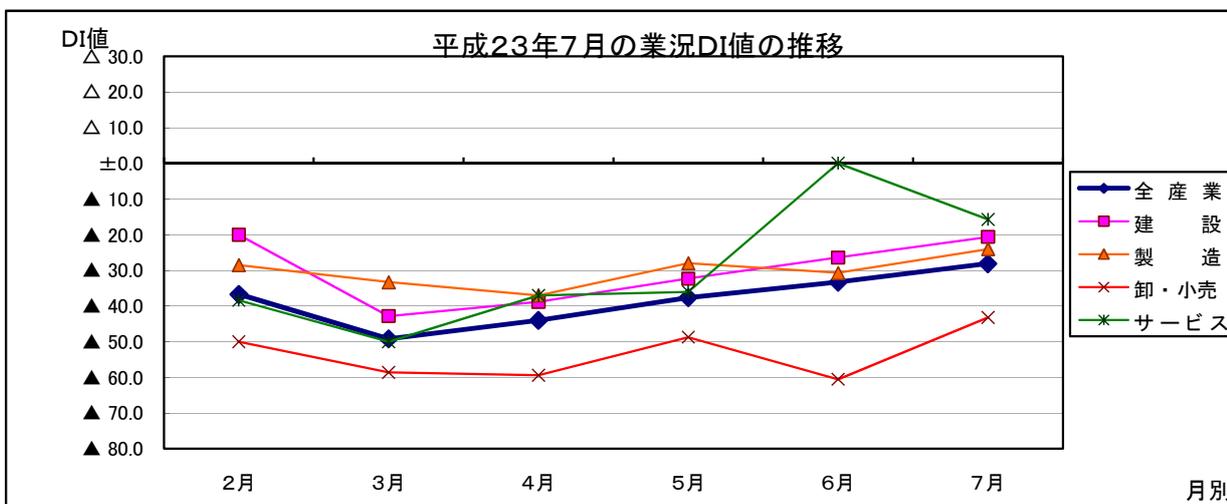
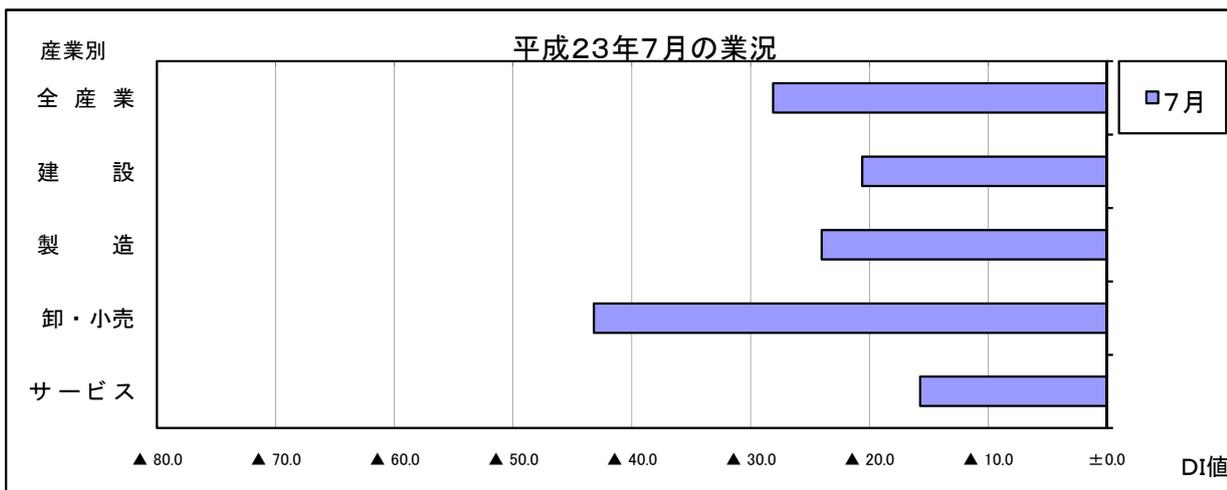
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43. 2(同▲60. 5)、製造業▲24. 0(同▲30. 7)、建設業▲20. 6(同▲26. 4)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15. 7(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22. 7(前月水準▲24. 1)となり、プラスマイナス幅が1. 4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16. 0(同▲34. 6)、卸小売業▲35. 1(同▲39. 4)、建設業▲13. 7(同▲17. 6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲21. 0(同△4. 5)であり、▲25. 5ポイントと大幅に悪化する見通しである。

平成23年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲36.7	▲49.2	▲44.0	▲37.6	▲33.3	▲28.1	▲22.7(▲24.1)
建設	▲20.0	▲42.8	▲38.8	▲32.3	▲26.4	▲20.6	▲13.7(▲17.6)
製造	▲28.5	▲33.3	▲37.0	▲28.0	▲30.7	▲24.0	▲16.0(▲34.6)
卸・小売	▲50.0	▲58.6	▲59.4	▲48.7	▲60.5	▲43.2	▲35.1(▲39.4)
サービス	▲38.4	▲50.0	▲37.0	▲36.0	±0.0	▲15.7	▲21.0(△4.5)



【平成23年7月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.0(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小した。

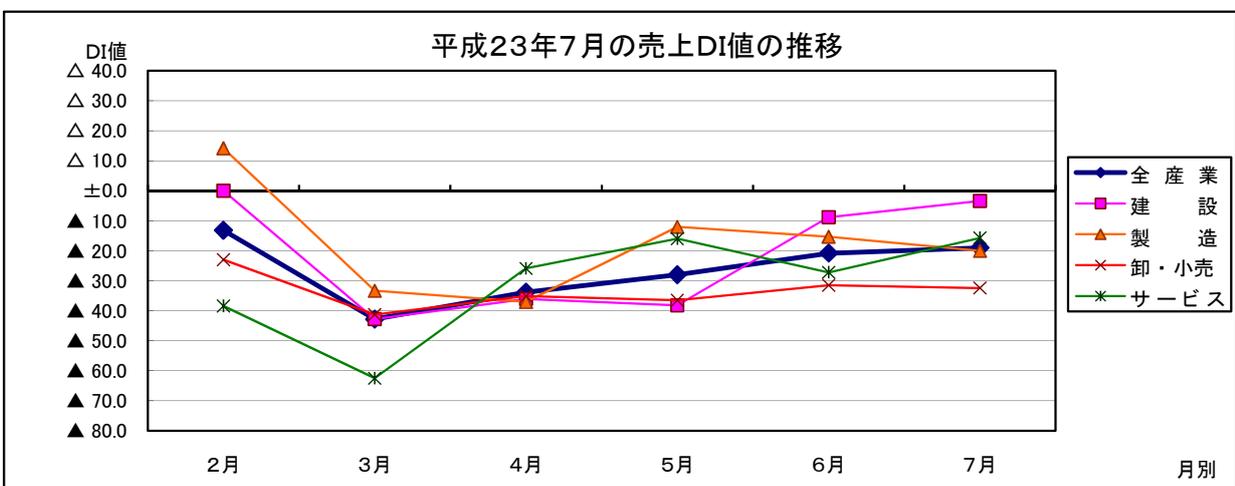
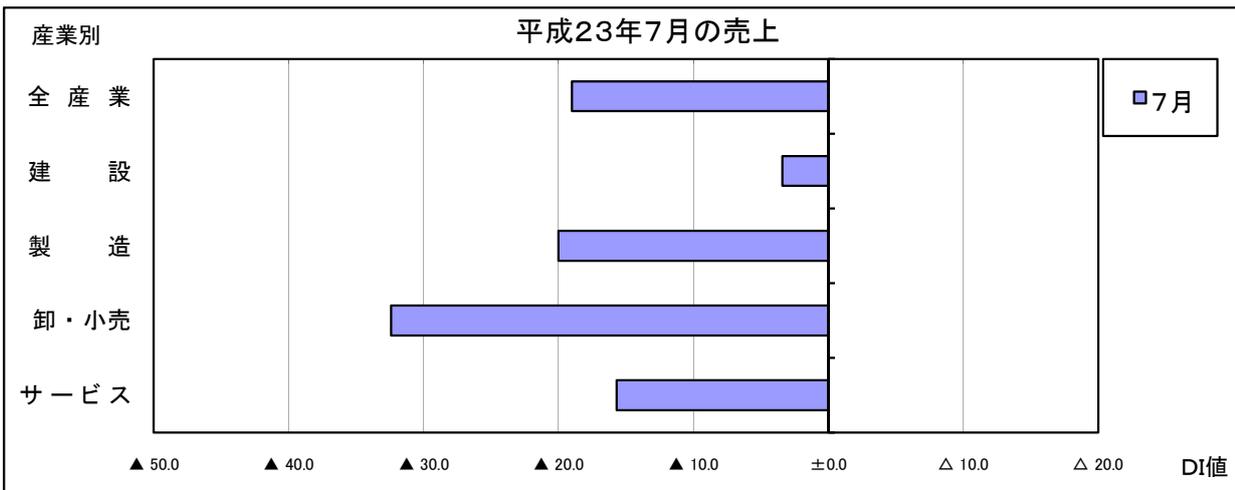
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.7(同▲27.2)、建設業▲3.4(同▲8.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲15.3)、卸小売業▲32.4(同▲31.5)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.8(前月水準▲19.1)となり、マイナス幅が7.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業20.6(同±0.0)であり、プラス幅が20.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.0(同▲36.8)、製造業▲24.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲15.7(同▲4.5)である。

平成23年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲13.2	▲42.8	▲33.8	▲28.0	▲20.8	▲19.0	▲11.8(▲19.1)
建設	±0.0	▲42.8	▲36.1	▲38.2	▲8.8	▲3.4	△20.6(±0.0)
製造	△14.2	▲33.3	▲37.0	▲12.0	▲15.3	▲20.0	▲24.0(▲30.7)
卸・小売	▲23.0	▲41.3	▲35.1	▲36.5	▲31.5	▲32.4	▲27.0(▲36.8)
サービス	▲38.4	▲62.5	▲25.9	▲16.0	▲27.2	▲15.7	▲15.7(▲4.5)



【平成23年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.0(前月水準▲34.1)となり、マイナス幅が5.1ポイント縮小した。

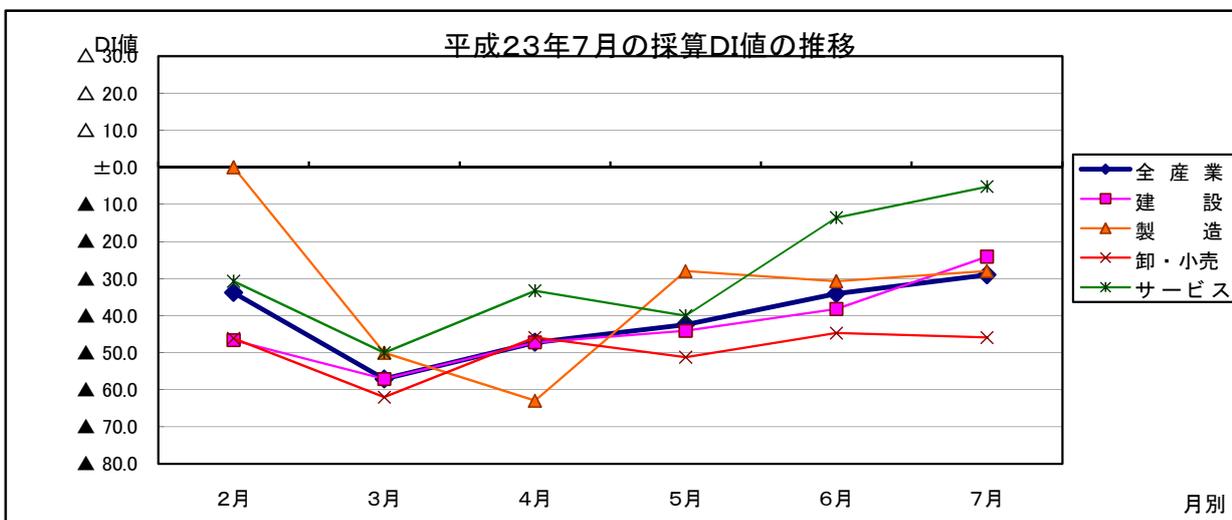
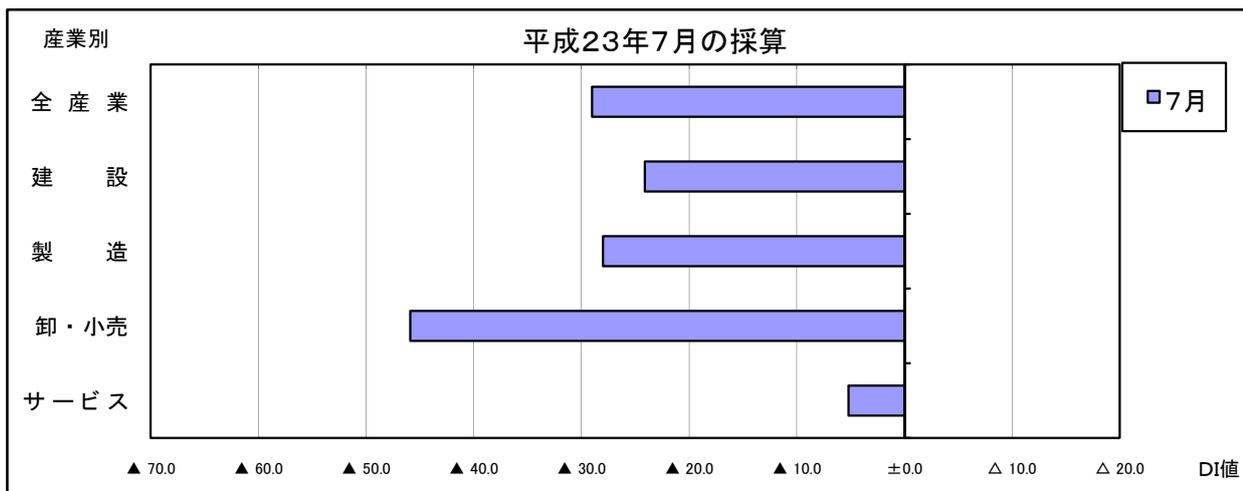
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲24.1(同▲38.2)、サービス業▲5.2(同▲13.6)、製造業▲28.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲45.9(同▲44.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.8(前月水準▲31.6)となり、プラスマイナス幅が9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲23.5)、卸小売業▲32.4(同▲42.1)、製造業▲40.0(同▲46.1)である。特に、建設業はマイナス幅が23.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲10.5(同▲9.0)である。

平成23年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲33.8	▲57.1	▲47.2	▲42.4	▲34.1	▲29.0	▲21.8(▲31.6)
建設	▲46.6	▲57.1	▲47.2	▲44.1	▲38.2	▲24.1	±0.0(▲23.5)
製造	±0.0	▲50.0	▲62.9	▲28.0	▲30.7	▲28.0	▲40.0(▲46.1)
卸・小売	▲46.1	▲62.0	▲45.9	▲51.2	▲44.7	▲45.9	▲32.4(▲42.1)
サービス	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲13.6	▲5.2	▲10.5(▲9.0)



【平成23年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.3(前月水準▲36.6)となり、マイナス幅が▲9.7ポイント拡大した。

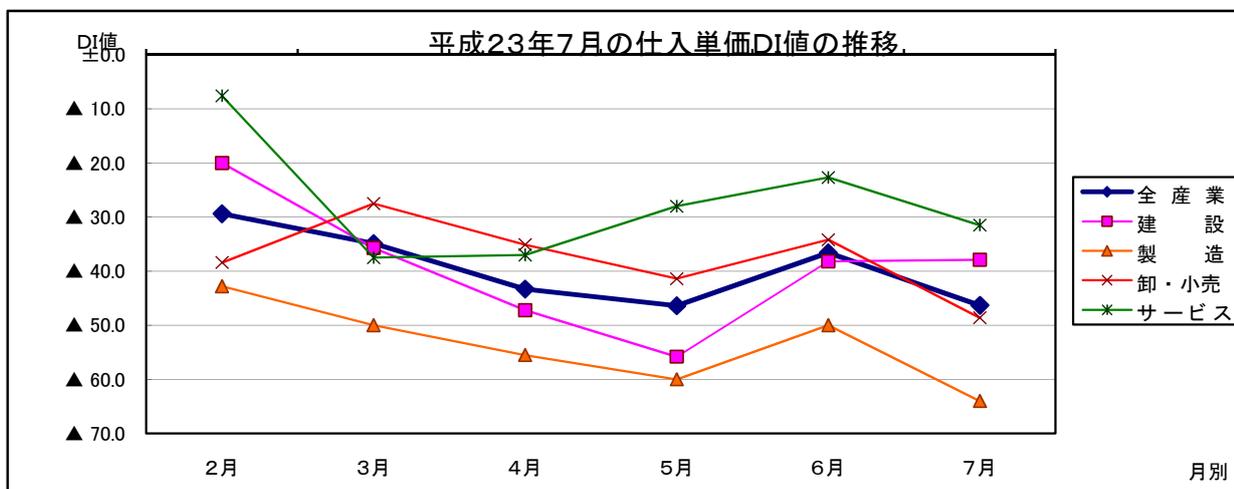
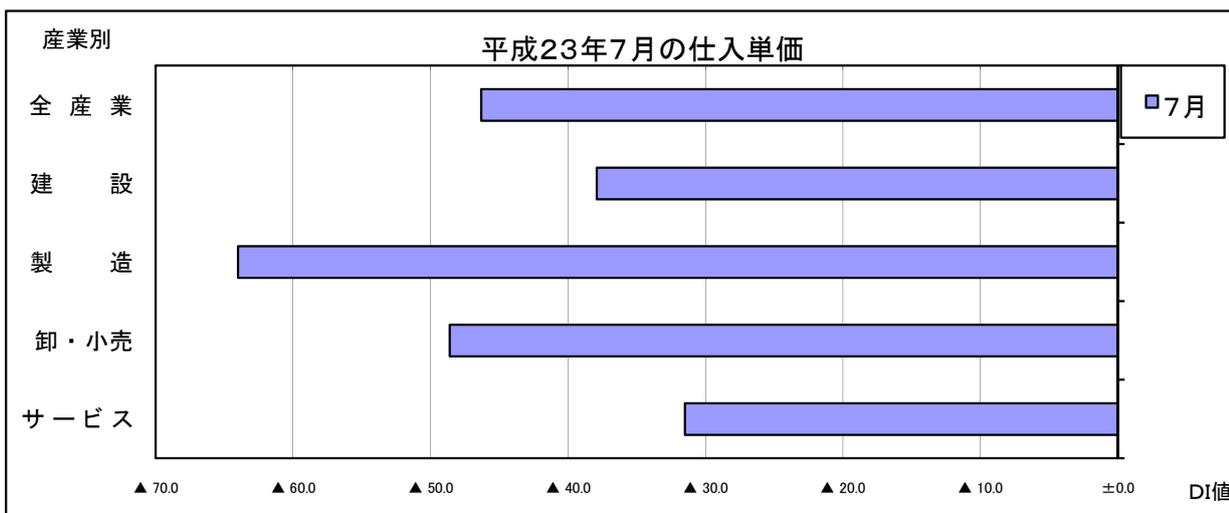
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲37.9(同▲38.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.6(同▲34.2)、製造業▲64.0(同▲50.0)、サービス業▲31.5(同▲22.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.8(前月水準▲35.8)となり、マイナス幅が、9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.7(同▲42.1)、建設業▲34.4(同▲38.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.7(同▲13.6)、製造業▲44.0(同▲42.3)である。

平成23年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.4	▲34.9	▲43.3	▲46.4	▲36.6	▲46.3	▲31.8(▲35.8)
建設	▲20.0	▲35.7	▲47.2	▲55.8	▲38.2	▲37.9	▲34.4(▲38.2)
製造	▲42.8	▲50.0	▲55.5	▲60.0	▲50.0	▲64.0	▲44.0(▲42.3)
卸・小売	▲38.4	▲27.5	▲35.1	▲41.4	▲34.2	▲48.6	▲29.7(▲42.1)
サービス	▲7.6	▲37.5	▲37.0	▲28.0	▲22.7	▲31.5	▲15.7(▲13.6)



【平成23年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.0(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大した。

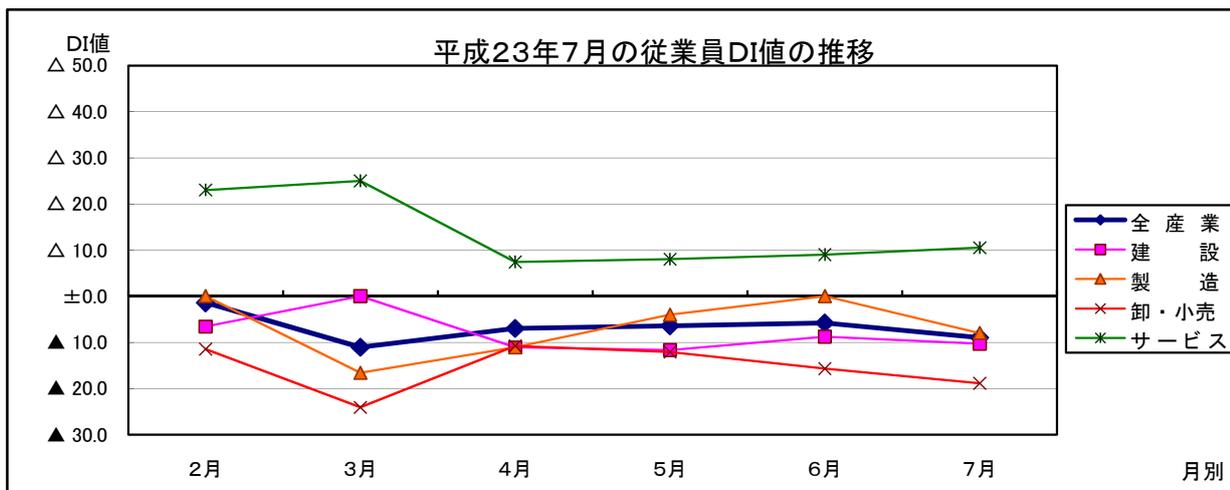
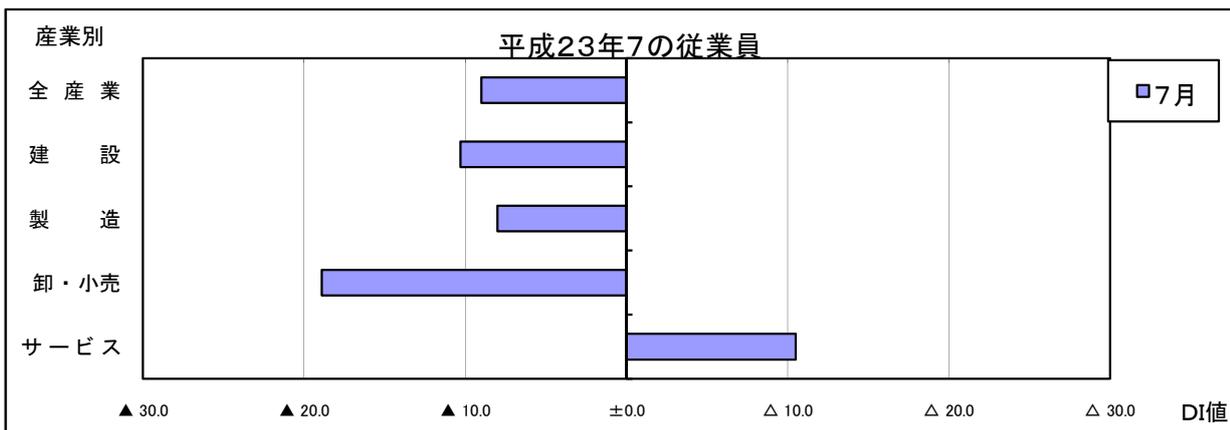
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業10.5(同9.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.0(同±0.0)、卸小売業▲18.9(同▲15.7)、建設業▲10.3(同▲8.8)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.7(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△6.8(同▲8.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲4.0(同▲11.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業5.2(同13.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲13.5(同▲10.5)である。

平成23年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲1.4	▲11.1	▲7.0	▲6.4	▲5.8	▲9.0	▲2.7(▲5.8)
建設	▲6.6	±0.0	▲11.1	▲11.7	▲8.8	▲10.3	△6.8(▲8.8)
製造	±0.0	▲16.6	▲11.1	▲4.0	±0.0	▲8.0	▲4.0(▲11.5)
卸・小売	▲11.5	▲24.1	▲10.8	▲12.1	▲15.7	▲18.9	▲13.5(▲10.5)
サービス	△23.0	△25.0	△7.4	△8.0	△9.0	△10.5	△5.2(△13.6)



【平成23年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.4(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。

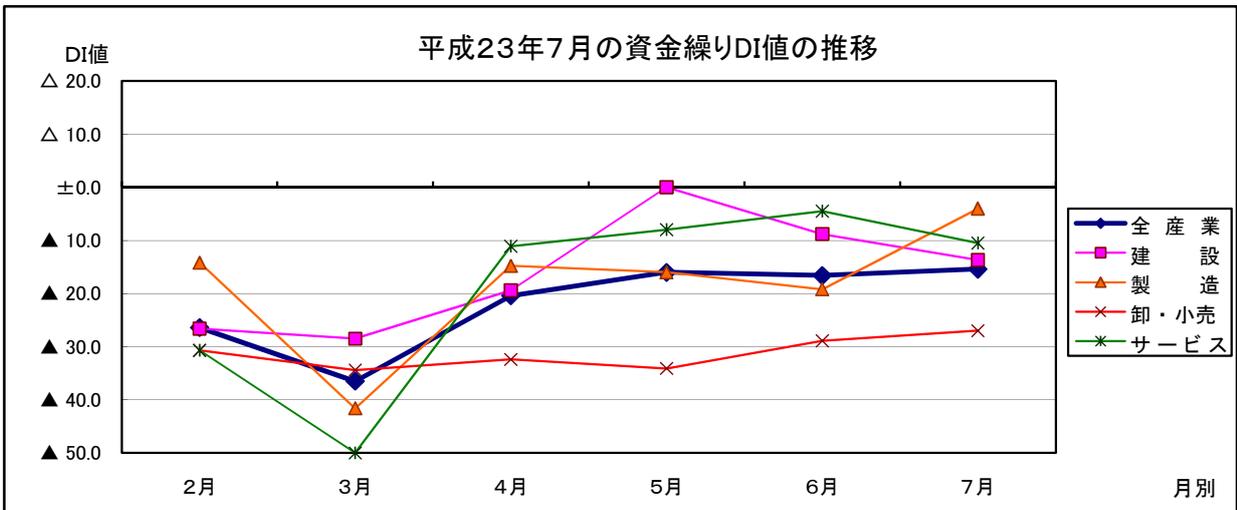
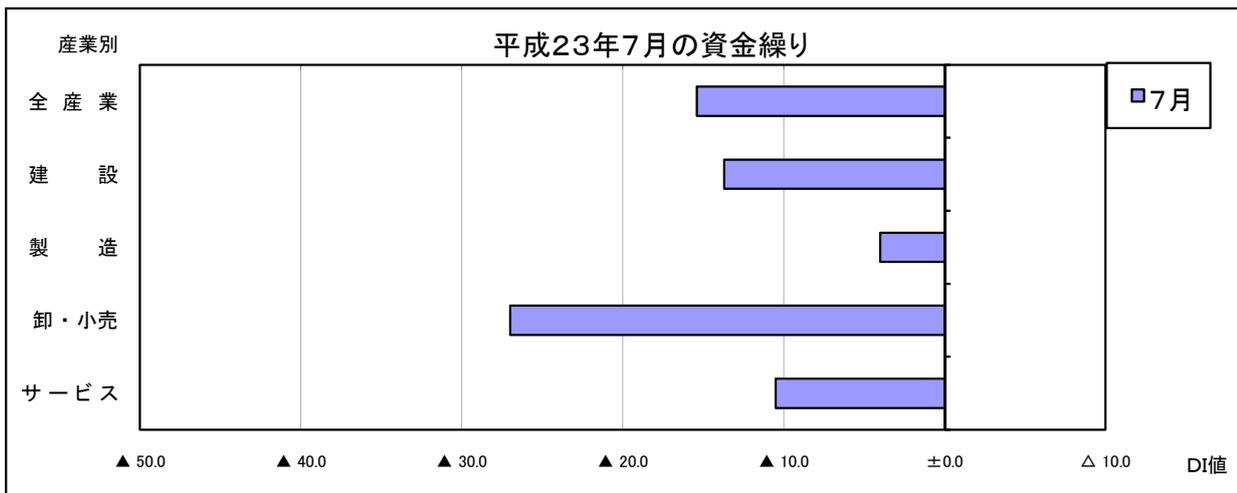
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲4.0(同▲19.2)、卸小売業▲27.0(同▲28.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲10.5(同▲4.5)、建設業▲13.7(同▲8.8)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.7(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業6.8(同▲2.9)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲24.0(同▲26.9)、卸小売業▲21.6(同▲23.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲10.5(同±0.0)である。

平成23年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲26.4	▲36.5	▲20.4	▲16.0	▲16.6	▲15.4	▲12.7(▲14.1)
建設	▲26.6	▲28.5	▲19.4	±0.0	▲8.8	▲13.7	△6.8(▲2.9)
製造	▲14.2	▲41.6	▲14.8	▲16.0	▲19.2	▲4.0	▲24.0(▲26.9)
卸・小売	▲30.7	▲34.4	▲32.4	▲34.1	▲28.9	▲27.0	▲21.6(▲23.6)
サービス	▲30.7	▲50.0	▲11.1	▲8.0	▲4.5	▲10.5	▲10.5(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.0	▲ 11.8	▲ 29.0	▲ 21.8	▲ 46.3	▲ 31.8	▲ 9.0	▲ 2.7
建設	▲ 3.4	△ 20.6	▲ 24.1	±0.0	▲ 37.9	▲ 34.4	▲ 10.3	△ 6.8
製造	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 40.0	▲ 64.0	▲ 44.0	▲ 8.0	▲ 4.0
卸・小売	▲ 32.4	▲ 27.0	▲ 45.9	▲ 32.4	▲ 48.6	▲ 29.7	▲ 18.9	▲ 13.5
サービス	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 10.5	▲ 31.5	▲ 15.7	△ 10.5	△ 5.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.1	▲ 22.7	▲ 15.4	▲ 12.7
建設	▲ 20.6	▲ 13.7	▲ 13.7	△ 6.8
製造	▲ 24.0	▲ 16.0	▲ 4.0	▲ 24.0
卸・小売	▲ 43.2	▲ 35.1	▲ 27.0	▲ 21.6
サービス	▲ 15.7	▲ 21.0	▲ 10.5	▲ 10.5

【平成23年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	震災にあたり修理工事・耐震補強工事が増加	耐震 工事増加	一般土木建築工事業
	市発注工事では予定価格が事前公表されているため、殆どの入札参加者が最低価格ギリギリで応札するので抽選で落札者が決まっている状態が続いている。(競争性がなくなって、くじ運で左右されてしまっている。)	公共工事入札	土木工事業
	猛暑の予想で省エネ型エアコンに買い替えが増えた。一般に節電の考えが浸透してきている	猛暑 エアコン 節電	電気工事業
	学校の夏休みに向かって補修工事はあるがその後の見通しは未定	夏休み 補修工事 先行き不透明	土木工事業
	屋根瓦の改修工事も完了し地震の復旧工事も落ち着いた	改修工事	一般土木建築工事業
	公共工事でも夏休みの学校関係の工事が集中してきている。梅雨が終わり民間の受注が増えている。受注はあるが従業員不足でお客様には待って頂いている状態	公共工事 夏休み 受注増加 従業員不足	塗装工事業
	地震で遅れていた工事の集中で7月は売上げの増加となった。多々震災の影響で現在でも生産が正常化されていない材料もある。また、節電により生産ができない材料もあり。材料納入は順調とはいえない。材料の高騰は相変わらずで採算ベースは下落している。個人住宅やビル、マンションのリフォームも来ているが受注競争は厳しく単価を下げた受注となる為材料高騰、受注単価減少となり、厳しい状況が続いている。材料不足、高騰、受注単価減少、売上減少、資金繰り悪化となり、倒産整理となった同業者も出ている。また、放射能の影響で柏からの転出、住宅取り消しも出ている。	工事集中 売上増加 節電 材料不足 材料高騰 放射能の影響 震災の影響	その他の職別工事業
	震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ。震災の影響による今後の資機材等の価格上昇の懸念。震災の影響による工事材料の供給量、納期等への影響はほとんど無い。住宅設備機器の供給についてはほぼ回復	工事件数減少 着工遅れ 資機材高騰	ガス業
	7月東京盆前の影響もあり、畳表替工事の需要が増えつつあるのがうれしい	工事増加	内装工事業
	全体の景況が悪くとも業種的にも苦境であってもその中で生き残れる道があるはず。知恵と工夫が試される。今は節減のため人員カットなど人との結びつきが希薄になるなか、わが社は人は城人は石垣の例えがある通り社員とともにある会社になるよう努力をしていきたい	企業努力	一般土木建築工事業
船舶関係は状況が悪く全体に見通しが暗い	先行き不透明	電子部品・デバイス製造業	
福島原発関連の仕事が増えている。	原発関連発注増加	特殊産業用機械	
15%節電に対し20%減を目標に取り組んでいる。具体的対応として工場の1F窓にゴウヤアサガオ等のグリーンカーテンを実施する、工場屋根に打ち水用パイプを設置し、2～3度の室温効果を期待。警報体制を引き、節電行動の徹底を実施	節電目標	その他の機械・同部品製造業	
景況感増加傾向にあるが7～9月の得意先の休日変更によるため、当社の稼働日も日曜出勤などによって能率の低下が懸念される	休日変更 能率低下	その他の金属製品製造業	
6月末に導入した大型インクジェットの出力機がフル回転です。外注することなく自社で製作施工することができ利益率も少しは増加しています。また、溶剤系の出力機を入れ事で新しい技術も得業の拡大もできました	設備投資 利益率増加 営業拡大	印刷業	
得意先の製造業は節電による工場の夏季休業が昨年より長くなり、売上の激減が生じる。	節電 夏季休暇 売上激減	紙製容器製造業	

【平成23年7月の業種別業界内トピックス】

製造	<p>震災の影響がここへ来て本格化するか？震災特需を期待していたが何も変化なく、東北での製造業の復興までに関東に仕事が流れるかと思いきや、どうやら中国での新規立ち上げが多いと聞く。東北の精密部品メーカーが中国に拠点を移してしまえば、そこからの受注は0になってしまう。当然、自動車メーカーなどは円高の影響で国内での部品生産より中国で製造して部品ごと輸入して国内で組み立てるという図式は大幅なコスト削減になるだろう。しかし、今まで国内製造の自動車産業を支えてきた中小零細製造業者は、本当に仕事が無くなってしまふ。東北地方の復興は自動車メーカーの復興とはなんの関係もなくなってしまふ。大手メーカーは国外へ生産を移すことにより、利益を確保できるだろうが、移された東北の製造業者やそこに部品を納めていた我々は利益の確保どころか企業存続の危機に瀕しているといえる。復興支援策として、製造業の生産を海外へ移すことを制限するなどの措置はとれないのだろうか。また繰り返して言うと同高をどうにかすることが復興への最優先課題ではないか？その認識をもった政治家は皆無なのだろうか？つくづく疑問に思う。</p>	<p>震災の影響 震災特需 海外移転 円高の影響 復興支援策</p>	<p>その他の金属製品製造業</p>
	<p>例年8月の生産は休業が多く落ち込みが見られるが3か月間でやや増加となると思われる。なお節電15%についての影響については不明である</p>	<p>節電</p>	<p>一般産業用機械・装置製造業</p>
	<p>円高の進み具合によっては、さらに為替差損による影響が懸念される。</p>	<p>円高 為替差損</p>	<p>ガラス・同製品製造業</p>
	<p>新規設備投資の増加が見込めず先行不透明です。また購入材料量の値上げが続き利益減少が見込まれます</p>	<p>先行き不透明 材料高騰 利益減少</p>	<p>その他の機械・同部品製造業</p>
	<p>15%の節電要請による作業効率の悪化</p>	<p>節電 作業効率悪化</p>	<p>紙製容器製造業</p>
	<p>注文控えが見受けられ全体的に売り上げが減少傾向にある</p>	<p>売上減少</p>	<p>一般産業用機械・装置製造業</p>
卸小売	<p>業況は残暑のあるなしで大きく左右される。ここ2年間残暑厳しく秋物衣料は全く飛んでしまった感があり流すくらいしか作らなくなっている。残暑があれば単価が上がらず売上高の減少になる</p>	<p>残暑の影響 秋物商戦 売上減少</p>	<p>婦人・子供服小売業</p>
	<p>買い控えムードも少し落ち着きを見せているものの、若い主婦たちの柏のホットスポットの話題を数多く聞く家族での転居の話もちらほら、そんな中でも、節電も一息の様子もあり、今後、消費に向かうように見える</p>	<p>買い控え ホットスポット 節電</p>	<p>時計・眼鏡・光学機械小売業</p>
	<p>売上は前年比+1.8%、入店客数はマイナス0.5%とわずかに前年を下回った。中元商戦は前年よりも会期を15日短縮したものの、+0.2の売上まで推移した。また、柏は放射能ホットスポットや牛肉のセシウム汚染の報道の影響もあり生肉については7月度マイナス11.9と不振である。一方野菜は前年+3.8と好調に推移している</p>	<p>売上増加 入店客数減少 お中元商戦 ホットスポット</p>	<p>百貨店</p>
	<p>7月度、セールを昨年より1週間前倒し6/30(木)より開催したことから、売上高は前年を上回る出足となった。百貨店のセールが7/1開催と、足並みが揃わなかったことから初日に大きく落とされた。2日目以降徐々に盛り返したものの、手堅い消費行動がみえてとれ、買い廻りが減少、主力の衣料品が苦戦し全体に影響した。セール終了後さらに割引セールを開催、前年を上回る推移となったが、19日、20日に台風に見舞われたことから、売上高は落ち込みをみせた。月末に掛けては店頭をプロパー商品メインに打ち出し、単価を上げて前年を確保していく。</p>	<p>売上増加 買い控え 衣料品苦戦 天候の影響</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>例年より梅雨明けが早く気温も高めに推移し見きりに入った夏物衣料品を中心に売れている。節電は使用制限範囲内に収まっているが暑さに向かい空調への影響が心配である</p>	<p>夏物衣料好調 節電</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>とにかくホットスポットといわれている東葛地域の放射能問題には行政は全力で取り組んで頂きたい。今後食品の放射線量問題はますます出てくるようで正直怖い。食品表示に関しては小売業だけではなく後は飲食業も積極的に勉強すべきである</p>	<p>ホットスポット</p>	<p>各種食料品小売業</p>
<p>各メーカーから8月より原材料の値上げの通知が来ている。値上げ率も大きく、品目もたくさんで簡単には商品の価格には転嫁できず頭の痛いところだ。</p>	<p>材料高騰 価格転嫁困難</p>	<p>菓子・パン小売業</p>	

【平成23年7月の業種別業界内トピックス】

	夏場は食欲無くなるためもと売上は落ちる。でも無策ではない	売上減少	菓子・パン小売業
	7月は夏祭りなどのイベントに使う食材などが毎年売れるのですが、今年は縮小傾向にある為、売上が伸びません	イベント縮小 売上伸び悩み	農畜産物・水産物卸売業
	7月売上は例年なら一番夏の売り上げがよいのですが今年はマスコミの影響もあり牛肉問題でかなり低下しています。放射能問題が落ち着いたことには家族連れや一般のお客様が安心して肉を食べられないのが低下している原因	売上減少 放射能問題	農畜産物・水産物卸売業
	7月中下旬の青果物状況として、野菜の主要品目は前年並みの入荷量となったが、単価は安値取引、また果実の主要品目は入荷量の増加と単価の高値で推移しています。これは台風6号接近以前の猛暑により順調な取引で消費者の購買がよかった。しかしその後5月頃の陽気となり取引はやや減少しています。加えて原発事故の影響が収束する気配がなく今後の取引に不安がありますが安全安心の情報をもって提供しています。	青果単価安 果実単価高 猛暑の影響 売上増加 原発事故の影響	食料・飲料卸売業
	生コンは8月から原材料価格が上昇するが売価への転嫁がカギ。産廃に関しては能力上限が2～3か月は続くと思われる。よって売上高は2～3か月高止まりし、荒廃の売上比率が多いため採算は向上、仕入のある生コンが4.5月に比べ6～9月まで倍増するため資金繰りは一時期やや悪化。	材料高騰 価格転嫁 売上高止まり 資金繰り悪化	建築材料卸売業
	高値安定していた原油価格LPガス価格が値下がり傾向。発注商品も順調に入荷できる。ところが柏からの転出者が多くあり、賃貸物件のオーナーはもとより、ガス供給会社も痛手を被っている	原油ガス値下がり 入荷順調 転出者増加 受注減少	燃料小売業
	値上げを積極展開中。8月で完了を目指し終了後は利益メンテナンスのため仕入れ交渉。商品置き換えとする	値上げ実施 商品置き換え	他に分類されない小売業
サービス	宿泊の稼働は戻ったもののインターネットからの予約が増え、一室単価を落とす傾向は変わらず。又、原発の影響で外人客の減少も大きい。宴会は、企業の宴会、会議、セミナーの減少により苦戦が続く原発の影響により食品(野菜、牛肉、、米、大豆、トウモロコシ等)の値上がり予測される。個人消費も落ちている中で個人需要が落ちてくるともっと厳しくなりそうである。	インターネット予約増加 単価下落 原発事故の影響 外国人客減少 宴会苦戦 個人消費落ち込み	ホテル
	放射能を含め、夏のレジャー動向に不安を感じている	放射能問題 レジャー動向不安	ホテル
	7月は前年同月と比べ海外個人、法人需要が前年をこえてきた。先行き見通しとしては9月が国内個人、法人需要が前年を超える見込みだが、8月10月が前年われの動きとなっている	需要増加	旅行業
	全体としてお客様からの問い合わせが減少しています。やはり放射能に対する一般の人々の不安が影響しているようです。特にマスコミによるホットスポットの記事が響いています。	問合せ減少 放射能問題 ホットスポット	不動産管理業
	放射能汚染、特に柏がホットスポットといわれている中で賃貸住宅部門では住民の不安があり、除染の要請や他地域への退去の意向もあり予断を許さない	放射能問題 ホットスポット 除染	不動産賃貸業
	賃貸事業につき大きな変動はありませんが郊外の住居用賃貸は空き室が多いと聞きます。住居用商業用ともに変動はありません	空き室増加	不動産賃貸・管理業
	北部において東大三井の動きが活発	北部発展	ソフトウェア業
	前月と変わらずです。ただ、例年ですと夏季期間は案件は少ないこともあり、ダブルパンチを受けた感じですが。上期は種まきに徹しています。耐えるのみかなと思ってます。	案件減少	ソフトウェア業
	人口の減少、ペット数の伸び悩み、動物病院の増加などにより経営が心配です	人口減少 同業者増加 経営不安	獣医業
	業況は不変であるが、関与先企業への支援頻度の増加に伴い、報酬が増加している。採算に関しては、リストラの一環として①オフィスの閉鎖②専従従業員の減少が採算を好転させている	業況不変 リストラ実施 採算好転	その他の専門サービス業

◎原発事故の影響

- 材料不足、高騰、受注単価減少、売上減少、資金繰り悪化となり、倒産整理となった同業者も出ている。また、放射能の影響で柏からの転出、住宅取り消しも出ている。 その他の職別工事業
- 買え控えムードも少し落ち着きを見せているものの、若い主婦たちの柏のホットスポットの話題を数多く聞く家族での転居の話もちらほら、そんな中でも、節電も一息の様子もあり、今後、消費に向かうように見える 時計・眼鏡・光学機械小売業
- 柏は放射能ホットスポットや牛肉のセシウム汚染の報道の影響もあり生肉については7月度マイナス11.9と不振である。一方野菜は前年+3.8と好調に推移している 百貨店
- とにかくホットスポットといわれている東葛地域の放射能問題には行政は全力で取り組んで頂きたい。今後食品の放射線量問題はますます出てくるようで正直怖い。食品表示に関しては小売業だけではなく後は飲食業も積極的に勉強すべきである 各種食料品小売業
- 全体としてお客様からの問い合わせが減少しています。やはり放射能に対する一般の人々の不安が影響しているようです。特にマスコミによるホットスポットの記事が響いています。 不動産管理業
- 放射能汚染、特に柏がホットスポットといわれている中で賃貸住宅部門では住民の不安があり、除染の要請や他地域への退去の意向もあり予断を許さない 不動産賃貸業

◎受注・売上減少

- 震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ。 ガス業
- 新規設備投資の増加が見込めず先行不透明です。また購入材料量の値上げが続き利益減少が見込まれます その他の機械・同部品製造業
- 注文控えが見受けられ全体的に売り上げが減少傾向にある 一般産業用機械・装置製造業
- 7月は夏祭りなどのイベントに使う食材などが毎年売れるのですが、今年は縮小傾向にある為、売上が伸びません 農畜産物・水産物卸売業
- 前月と変わらずです。ただ、例年ですと夏季期間は案件は少ないこともあり、ダブルパンチを受けた感じです。 ソフトウェア業

◎節電

- 猛暑の予想で省エネ型エアコンに買い替えが増えた。一般に節電の考えが浸透してきている 電気工事業
- 15%節電に対し20%減を目標に取り組んでいる。具体的対応として工場の1F窓にゴウヤアサガオ等のグリーンカーテンを実施する、工場屋根に打ち水用パイプを設置し、2~3度の室温効果を期待。警報体制を引き、節電行動の徹底を実施 その他の機械・同部品製造業
- 15%の節電要請による作業効率の悪化 紙製容器製造業
- 節電は使用制限範囲内に収まっているが暑さに向かい空調への影響が心配である その他の各種商品小売業

平成23年7月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.1に対し、「CCI-LOBO」が▲40.0で、柏の方がマイナス幅が11.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.0に対し、「CCI-LOBO」が▲31.4で、柏の方がマイナス幅が12.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.0に対し、「CCI-LOBO」が▲36.0で、柏のほうマイナス幅が7.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.3に対し、「CCI-LOBO」が▲33.7で、柏の方がマイナス幅が12.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.0に対し、「CCI-LOBO」が▲7.1で、柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。製造業は変わらない。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.4に対し、「CCI-LOBO」が▲24.9で、柏の方がマイナス幅が9.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、全てにおいて10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

平成23年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.1	 20.6	 24.0	 43.2	 15.7
CCI LOBO	 40.0	 45.8	 32.9	 35.1	 45.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.0	 3.4	 20.0	 32.4	 15.7
CCI LOBO	 31.4	 37.4	 21.1	 27.7	 37.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 29.0	 24.1	 28.0	 45.9	 5.2
CCI LOBO	 36.0	 49.3	 29.0	 27.3	 41.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 46.3	 37.9	 64.0	 48.6	 31.5
CCI LOBO	 33.7	 45.0	 40.2	 25.9	 31.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 9.0	 10.3	 8.0	 18.9	 10.5
CCI LOBO	 7.1	 11.4	 8.0	 0.6	 6.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.4	 13.7	 4.0	 27.0	 10.5
CCI LOBO	 24.9	 37.2	 19.7	 23.8	 27.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成23年7月15日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2700業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、被災地を除き震災前水準に近づくも、産業空洞化への懸念が広がる

7月の全産業合計の業況DIは、40.0(前月比+11.4ポイント)と、過去2番目の改善幅()を記録。震災前の水準(11年2月：40.1)に回復したものの、その水準は、リーマン・ショック後、回復途上にあつた2010年5月と同程度。(過去最大は1997年3月の+11.9ポイント)

先行きについては、先行き見通しDIが33.6と、今月から+6.4ポイント改善する見通し。自動車メーカーの増産に伴う受注増加や消費回復への期待がみられる。しかし、サプライチェーンの寸断を契機としたリスク分散に加え、円高や電力不足の長期化等を背景に、地元で立地する製造業の海外移転が進展していることから、雇用喪失など地域経済への影響を懸念する声が多い。

【建設業】「公共事業が被災地の復旧優先となり、地元では工事減少が見込まれるた

め、先行きは厳しい(土木工事業)、「住宅エコポイント制度の早期終了(2011年12月31日、7月31日)に伴う受注減少を懸念(電気工事業)」、「自治体の補正予算が執行された6月以降、被災地域での復旧工事の受注が増加(一般工事業)

【製造業】「足元の受注量は、大幅に落ち込んでいた3〜5月から回復。これまで減産していた分も含めて、生産量は高水準にある(自動車・同附属品製造業)」、「1ドル=80円前後で円相場が高止まりしており、輸出依存度の高い情報機器部門の収益が相当厳しい(金属製品製造業)」、「受注単価は依然厳しいものの、火力プラント用部品の受注が徐々に回復しつつある(産業用電気機械器具製造業)

【卸売業】「放射能汚染の影響で、お茶の売上が大幅に減少(飲料卸売業)」、「2010年産米の卸売価格が急激に上昇。仕入れ難から販売の落ち込みを懸念(米穀類卸売業)」、「復興需要により、電動ドリルやのこぎりなど、道路工事や建築用工具の需要が

増加(建築材料卸売業)

【小売業】「地デジ化や節電対応により、テレビや扇風機など家電製品の売上が好調(百貨店)」、「クールビズ・カジュアルビズの浸透で、涼感商品や暑さ対策商品の売上が好調。品切れも続出している(総合スーパー)」、「農産物など食料品への放射能汚染が広がり、消費者の不安が増大している。今後の売上への影響を懸念(百貨店)

【サービス業】「製造業の休日変更により、工場関係の宿泊客が増加(旅館)」、「放射能汚染の影響で、消費者の牛肉離れを懸念(食堂)」、「円高の影響で、輸向けへの貨物運送の需要が大幅に減少(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲38.7	▲48.7	▲26.8	▲36.4	▲37.4	▲46.8
2月	▲40.1	▲50.9	▲29.8	▲33.8	▲38.7	▲48.0
3月	▲45.9	▲59.5	▲35.7	▲37.1	▲46.0	▲51.5
4月	▲57.7	▲60.3	▲50.2	▲51.9	▲58.1	▲66.4
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
見通し	▲38.4	▲45.8	▲27.7	▲46.5	▲38.8	▲41.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI